□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
生理学	石田　裕二 （実務経験教員）	2	1	前期
授業概要	生体機能の基礎的知識（生命活動の本質），呼吸，循環，消化，排泄，それらを調節する自律神経や内分泌系の働きを学習する　特に各種の障害に深く関係する神経生理学を重視した内容を展開する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	概説	生命現象とは何か，人体の構造とその概略についてイメージできるようになる
2	細胞レベルの構造と機能	生命の原点である細胞の構造と機能についてその概略が理解できる
3	細胞膜の機能と膜電位・活動電位の発生機序①	分極，脱分極，再分極など細胞膜と生命現象の関係の概略を理解できる
4	細胞膜の機能と膜電位・活動電位の発生機序②	ニューロン（neuron）、シナプス（synapse）など、神経の基本構造を理解できる
5	神経系①　ニューロンとシナプスの構造と機能	中枢神経系（脳と脊髄）の構造と機能の概略を理解できる
6	神経系②　中枢神経と末梢神経の構造と機能	中枢神経系と末梢神経系の形態的・機能的な分類ができるようになる
7	筋生理	筋収縮に関するエネルギー供給・代謝について説明できる 滑走説を説明できる
8	脊髄の構造と下行路	錐体路系の下行路と錐体外路について理解できる
9	脊髄の構造と上行路	脊髄内の上行路と関連している感覚モダリティについて理解できる
10	伸張反射の回路①	脊髄の構造と機能の概略を説明できる 筋紡錘、腱器官の構造と機能を説明できる
11	伸張反射の回路②	脊髄反射の回路が理解できる 錘内筋の活動、機能について理解できる
12	自律神経系の構造と機能	自律神経（交感神経と副交感神経）の機能・神経制御によるホメオスタシスの維持機能について概略が理解できる
13	脳神経概論	脳神経の構造と機能の概略を理解できる　また、自律神経系との関連性について理解を深める
14	神経系のまとめ	神経系について（動物機能生理学系）総じてその概略を理解できる
15	血液・体液	循環器ホメオスタシスに関与する血液・体液について、その機能の概略を理解できる
16	心電図学　①	心臓の構造と機能の概略を学習し、心電図が表現する波形について理解を深める
17	心電図学　②	正常心電図の波形の名称、その意味について理解を深める
18	心電図学　③	呼吸器と循環器の機能の関連性と心電図の変化の概略が理解できる

19	呼吸器概論	呼吸器・循環器の構造と機能が理解できる
20	呼吸器と酸塩基平衡	呼吸・代謝機能の全貌から酸塩基平衡について理解できる
21	内分泌学　①	ホルモンやサイトカインについて論じ、その作用の概略について理解を深める
22	内分泌学　②	内分泌に関わる臓器、生産過程などを理解できる
23	消化器学　①	消化器の構造と機能について概略が理解できる
24	消化器学　②	消化酵素（化学的消化）の作用について理解できる
25	泌尿器学　①	腎臓と膀胱の機能と構造について理解できる
26	泌尿器学　②	膀胱の神経支配、排尿反射と神経因性膀胱の概略を理解できる
27	遺伝学	遺伝のメカニズムを理解し、その特徴について理解を深める
28	免疫機構　①	免疫とは何かを理解し、作用する各因子（血球や免疫物質）について知識を深める
29	免疫機構　②	免疫反応と自己免疫疾患の関係、具体的な症状とその治療などの概略が理解できる
30	植物機能生理学の要点	ホメオスターシスを維持する植物機能について概要を理解できる

教科書	最新　リハビリテーション基礎講座　生理学 （医歯薬出版：電子教科書棚内）	履修条件	電子教科書にて授業を進行する　PCを用意すること30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	生体の仕組み標準テキスト第3版　新しい解剖生理 （医学映像教育センター）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・適宜中間テスト（30点分）を実施する ・中間テスト（30点満点）の結果と定期テスト（70点満点）の結果を総合して成績に反映させる ・欠席数が規定範囲を超えた場合（全出席数の1/5を終えた場合）定期試験を受験できないので 単位未修得となり留年することになるので注意すること		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療倫理学	平塚　健太 （実務経験教員）	2	1	前期

授業概要	臨床で求められる医の倫理感を身に着ける基礎となる講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	倫理とは	オリエンテーション・倫理の概要を理解する
2	医療における倫理	医療倫理の4原則について理解し、考えを述べることができる
3	医療者と患者の関係①	医療面接の基本的な考えを理解し、考えを述べることができる
4	医療者と患者の関係②	医療面接の手法を理解し、考えを述べることができる
5	コメディカルの職業倫理①	理学療法士・作業療法士の職業倫理を理解する
6	コメディカルの職業倫理②	理学療法士・作業療法士の職業倫理を理解し、考えを述べることができる
7	生命誕生のあらまし①	出生前診断，胚選別，妊娠中絶について理解する
8	生命誕生のあらまし②	出生前診断，胚選別，妊娠中絶について理解し、考えを述べることができる
9	薬害と医療事故	薬害の歴史や医療事故について理解し、考えを述べることができる
10	人工臓器	ES　幹細胞移植　iPS細胞の治療や倫理的問題を理解する
11	臨床研究の倫理①	臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる
12	臨床研究の倫理②	臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる
13	障害の受容	障害を受け入れる過程について理解する
14	終末期医療，安楽死と尊厳死	終末医療と尊厳死について理解を深め，自分の考えを述べることができる
15	まとめ	症例課題に基づき自分の考えをまとめ，述べることができる

教科書	必要に応じて提示する	履修条件	15回の講義なので４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	教養としての生命倫理	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療情報科学演習Ⅰ	外舘　洸平 （実務経験教員）	1	1	前期
授業概要	パソコン操作を不便なく行うことができ、ICT化する臨床現場に対応できるように推奨する情報収集のあり方などを、講義・演習を通して習得できる			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション	パソコンの基本的な操作を習得することができる
2	Gmail、Google Classroom	メールでの連絡方法、およびGoogle Classroomを使用した課題の提出方法を習得することができる
3	OneNote	OneNoteを使用して授業のノートをとることができる
4	Word	文章を入力などの基本的な操作、レイアウト変更や図表の挿入ができ、見やすい文章を作成することができる
5	PowerPoint	基本的な操作を理解し、プレゼンテーション用の資料を作成することができる
6	Excel	基本的な操作を理解し、グラフ作成、関数を使用した計算を行うことができる
7	情報リテラシー①	自他の個人情報の重要性を知り，個人情報を守るために正しく対処できる
8	情報リテラシー②	文献検索の意義を理解し、文献検索を行うことができる。また、著作物に関する権利を理解し、正しく用いることができる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	資料配布	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	各回で課題の提出を求め、提出物が指定された条件を満たしているか採点する		
備考	基本操作の紹介は行うが、操作の習熟は各自の自己練習に期待したい		

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
解剖学	千葉　馨 （実務経験教員）	2	1	前期
授業概要	リハビリテーションの基礎知識となる人体の構造、部位名称等について覚え、理解し、後に学ぶ疾患や障害学、治療学の土台となるべく力を培う。			
到達目標	・人体の各部位名称を覚える、書ける、人体の構成を理解する（解剖用語のアウトプットも含む）骨格筋について髄節、神経支配、作用、起始停止について覚える。			

授業計画

1	オリエンテーション	解剖学の用語と解剖学的体位と平面　人体の各部名称など（頭頸部、上肢下肢、体幹）
2	細胞	細胞
3	発生	ヒトの発生
4	人体の組織	骨の発生と骨格
5	消化器系の概要	消化器系の器官と働きの概要について学ぶ
6	泌尿器系の概要	泌尿器系の器官と働きの概要について学ぶ
7	循環器系の概要	循環器系の器官と働きの概要について学ぶ
8	呼吸器系の概要	循環器系の器官と働きの概要について学ぶ
9	神経系１	中枢神経と末梢神経、脊髄について学ぶ
10	神経系２	脊柱と椎骨、脊髄神経について学ぶ
11	骨格系１	肩甲帯の筋
12	骨格系２	中間テスト／腕神経叢
13	骨格筋１	肘関節の筋①　髄節、支配神経、作用、起始停止
14	骨格筋２	肘関節の筋②　髄節、支配神経、作用、起始停止
15	骨格筋３	手関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
16	骨格筋４	手関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
17	骨格筋５	手指の筋の構造と手指の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
18	骨格筋６	手指の筋（手内筋）②髄節、支配神経、作用、起始停止
19	骨格筋７	下肢の構造
20	骨格筋８	股関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
21	骨格筋９	股関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
22	骨格筋１０	股関節の筋③髄節、支配神経、作用、起始停止
23	骨格筋１１	膝関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
24	骨格筋１２	膝関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
25	骨格筋１３	足関節の構造
26	骨格筋１４	足関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
27	骨格筋１５	足関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
28	体幹の構造１	背筋　髄節、支配神経、作用、起始停止
29	体幹の構造２	胸部の筋（呼吸筋）髄節、支配神経、作用、起始停止
30	体幹の構造３	腹部の筋　髄節、支配神経、作用、起始停止

教科書	グレイ解剖学第５版	履修条件	全講義の1/5を欠席すると単位を取得できない
参考書	標準理学療法作業療法解剖学第６版	留意事項等	・適宜小テストを不定期に行うので授業で行った部分の理解・知識の補完を常に行うこと
成績評価	中間および期末試験、出席状態など授業態度、提出物について成績の対象とする。 60点以上「C評定」で単位修得となる		
備考	授業終了後の理解度アンケート、不定期な小テスト等を実施する。積極的な質問を歓迎する。		

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
解剖学演習	千葉　馨 （実務経験教員）	1	1	後期

授業概要	神経系，消化器系，呼吸器系，泌尿生殖器系，内分泌系について系統的に学習する。また学習の理解度を深めるためにグループでの討議など振り返りの時間を取り入れる。小テストをこまめに実施して理解度を確認する。 本授業では担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの肉眼解剖教育の経験を活かして講義を展開する。
到達目標	解剖学講義を踏まえ、脳や脈管、内臓系について説明できる。

授業計画

1	大脳（終脳）	大脳の形態と機能局在について説明できる
2	大脳の内部構造と白質	大脳の内部に存在する神経核（大脳基底核など）と白質を構成する神経線維について説明できる
3	間脳・脳幹	間脳（視床，視床下部，視床上部）ならびに脳幹（中脳－橋－延髄）の構造と機能ついて説明できる
4	小脳・脊髄	小脳，脊髄の構造と機能 について説明できる
5	伝導路	錐体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる
6	髄膜と脳脊髄液，脳室系 脳の血管	内頸動脈系と椎骨動脈系，動脈輪，脳室と脳脊髄液の循環経路について説明できる
7	脳神経の種類と特徴	脳神経とは何か，その構造と機能について説明できる
8	自律神経系	自律神経系の構造と機能について説明できる
9	消化器系	・口腔から肛門に至る消化管の構造と機能を説明できる。 ・消化に必要な酵素を産生・貯蔵する付属器官についてその構造と機能を説明できる ・消化管に分布する動脈・静脈について説明できる
10		
11	呼吸器系	鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる
12		
13	泌尿・生殖器系	腎臓や膀胱，尿道などの泌尿器と精巣や卵巣，子宮などの生殖器について男女の違いも含めてその構造と機能を説明できる
14		
15	内分泌系	内分泌系の構造と機能について説明できる

教科書	・塩田浩平，他監：グレイ解剖学 原著第4版	履修条件	15回の講義の内，4回以上欠席の場合は定期試験を受験できない

参考書	・加藤征，他編：新解剖学 フルカラー新装版 第7版（Qシリーズ） ・松村譲兒：イラスト解剖学 第 9 版	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・小テスト，期末試験の内容をもって総合的に評価する ・総計の60%以上を合格とする		
備考	・授業資料を配布するので忘れずに授業に持ってくること ・分からない点を質問するなど教員をうまく活用し，知識の定着に努めること		

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
生理学演習	石田　裕二 （実務経験教員）	1	1	後期
授業概要	生理学演習では生理学で学んだ知識を具体的に演習を通じて体験し，臨床に必要不可欠な知識の理解を深める			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	循環器系の計測	循環動態と血圧の関係を理解し医学的根拠を持って血圧を計測することができる
2	心電図　①	心電図の基礎的なメカニズムを理解することができる
3	心電図　②	標準12誘導と胸部単極誘導について臨床的意味を説明できるようになる
4	心電図　③	異常心電図と正常心電図を比較し，病的問題点を評価できるようになる
5	心電図　④	標準12誘導を具体的に計測し，その臨床的技術を習得する
6	呼吸器系　①	呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる
7	呼吸器系　②	スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める
8	呼吸循環　①	有酸素運動と無酸素運動，ATポイントなどの意味を理解する
9	呼吸循環　②	運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する
10	筋電図　①	筋電図の波形についてその意味を理解できる
11	筋電図　②	筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる
12	筋電図　③	表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる
13	筋電図　④	誘発筋電計を用いてF波やＨ波の計測し，脊髄の興奮性について理解を深める
14	筋電図　⑤	誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し，臨床的意義を理解する
15	感覚検査	表在・深部感覚の具体的な計測から，神経障害の症状についての理解を深める

教科書	最新　リハビリテーション基礎講座　生理学 （医歯薬出版：電子教科書棚内）	履修条件	電子教科書にて授業を進行する　PCを用意すること15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	生体の仕組み標準テキスト第3版　新しい解剖生理 （医学映像教育センター）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
人間発達学	相馬　栄大 （実務経験教員）	1	1	前期
授業概要	人が成長する過程について中枢神経系の発達を中心に社会的に活躍し老年期に至るまでを理解し、その各ステージでの理学療法士・作業療法士の関わる視点を理解できる			
到達目標	新生児期からの発達過程に関わる神経系の理解と身体活動について理解できる			

授業計画		
1	正常発達について	発達の原則、ヒトの正常発達について
2	発達の概念	胎芽と胎児の発達過程に始まり、人間発達期、発達の主な原則などが理解できる
3	姿勢反射、反応とは	発達過程における反射・反応について学び、正常な発達の獲得の背景である中枢神経の成熟、筋と骨格の成長について理解できる
4	脊髄レベルの反射	正常児の脊髄レベルの反射について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
5	脳幹レベルの反射	正常児の脳幹レベルの反射について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
6	中脳レベルの反応	正常児の中脳レベルの反応について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
7	中間試験 大脳レベルの反応①	講義の１～７回目の内容について中間テスト（30分程度）を行う
8	大脳レベルの反応②	正常時の大脳レベルの反応について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
9	運動の発達①	１～３歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる
10	運動の発達②	６歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる
11	上肢機能の発達	ヒトの上肢機能を学び、成長過程次獲得できる運動等について理解できる
12	感覚・知覚・認知・社会性の発達	環境の刺激情報処理である感覚、知覚、認知について学び、感覚システムの発達について理解できる
13	ADLの発達（遊び・食事・排泄・更衣）	中枢神経系の発達と日常生活活動動作（ADL）の獲得の関係性を理解できる
14	発達検査	遠城寺式乳幼児分析的発達検査、日本版デンバー式発達スクリーニング検査、日本版ミラー幼児発達
15	学童・青年・成人・老年期の発達	エリクソン「８つの発達段階」について理解できる

教科書	上杉雅之監修 イラストでわかる人間発達学 医師薬出版株式会社	履修条件	前講義の1/５以上を欠席すると単位を取得できない
参考書	講義資料中に示す	留意事項等	適宜小テストを不定期に行うので授業で行った部分の理解・知識の補完を常に行うこと
成績評価	15回の講義の中で、適宜小テストを実施する。 小テストの結果と中間および期末試験、提出物を総合して成績に反映させる。		
備考	授業終了後の理解度アンケート、不定期な小テスト等を実施する。積極的な質問を歓迎する。		

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　理学療法学科

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動学	羽澤　晃士 (実務経験教員)	2	1	前期
授業概要	運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり，その理論的基盤をなす専門基礎科目である。本科目では，正常な身体運動を理解するうえで必要な運動器の基本構造と機能を学ぶ。さらに，身体各部位の関節構造と機能を関節運動と関連づけて学習し，機能解剖学的視点から四肢，脊柱・体幹，頭部における各関節運動の仕組みを深める。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション	本授業の概要ならびに運動学の学問領域について理解できる
2	骨の構造と機能	骨格を形成する骨の名称，骨の基本構造と機能について理解できる
3	関節の構造と機能①	関節の基本構造，関節の分類について理解できる
4	関節の構造と機能②	関節運動の表し方，関節包内における関節運動について理解できる
5	関節の構造と機能③	主要な関節とその運動方向について理解できる
6	骨格筋の構造と機能①	骨格筋の構造について理解できる
7	骨格筋の構造と機能②	筋の収縮機序，活動電位について理解できる
8	骨格筋の構造と機能③	筋線維の種類，運動単位，神経支配比について理解できる
9	骨格筋の構造と機能④	筋の収縮様式，筋のはたらき，筋肥大と筋萎縮について理解できる
10	骨格筋の構造と機能⑤	筋の静止張力と活動張力について理解できる
11	生体力学①	関節モーメント，外力と内力について理解できる
12	生体力学②	身体とてこ，筋力と重力について理解できる
13	体位と重心①	体位と構え，基本肢位，重心が規定される要素について理解できる
14	体位と重心②	基本的立位姿勢の理想的アライメントについて理解できる
15	肩複合体の運動学①	肩複合体の構造について理解できる
16	肩複合体の運動学②	肩複合体の関節運動について理解できる
17	肩複合体の運動学③	肩複合体の関節運動における靭帯の作用について理解できる
18	肩複合体の運動学④	肩複合体の関節運動における筋の作用について理解できる

19	肘関節・前腕の運動学①	肘関節・前腕の構造，関節運動について理解できる
20	肘関節・前腕の運動学②	肘関節・前腕の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
21	手関節の運動学①	手関節の構造，関節運動について理解できる
22	手関節の運動学②	手関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
23	手指の運動学①	手指関節の構造，関節運動について理解できる
24	手指の運動学②	手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
25	股関節の運動学①	股関節の構造，関節運動について理解できる
26	股関節の運動学②	股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
27	膝関節の運動学①	膝関節の構造，関節運動について理解できる
28	膝関節の運動学②	膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
29	足関節の運動学①	足関節の構造，関節運動について理解できる
30	足関節の運動学②	足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる

教科書	・基礎運動学	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると期末試験を受験できない
参考書	・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テスト，期末試験の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動学演習	羽澤　晃士 （実務経験教員）	1	1	後期
授業概要	前期に引き続き，正常な身体運動を理解するうえで必要な運動器の基本構造と機能を学び，身体運動・動作の仕組みについて理解を深める。また，正常歩行に関する基本的な知識を身につけるとともに，各関節運動時に作用する筋が即座にイメージできるよう演習課題を実施する。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	脊柱・体幹の運動学①	脊柱全体の基本構造と機能について理解できる
2	脊柱・体幹の運動学②	頸椎の構造，頸部の運動と関与する筋の作用について理解できる
3	脊柱・体幹の運動学③	胸郭の構造，胸部の運動と関与する筋の作用について理解できる
4	脊柱・体幹の運動学④	腰椎の構造，腰部の運動と関与する筋の作用について理解できる
5	顔面と頭部の運動学	顎関節の構造と関節運動，咀嚼筋と顔面筋（表情筋）の作用について理解できる
6	正常歩行①	正常歩行の基本概念（歩行周期）について理解できる
7	正常歩行②	正常歩行時の重心移動や各関節運動について理解できる
8	正常歩行③	正常歩行時の筋活動について理解できる
9	正常歩行④	正常歩行時の床反力について理解できる
10	上肢の筋作用①	上肢の関節運動時における筋作用を挙げることができる
11	上肢の筋作用②	
12	上肢の筋作用③	
13	下肢の筋作用①	下肢の関節運動時における筋作用を挙げることができる
14	下肢の筋作用②	
15	下肢の筋作用③	

教科書	・基礎運動学	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると期末試験を受験できない
参考書	・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テスト，課題作成を実施する ・小テスト，期末試験，提出物の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床運動学演習	相馬　栄大 （実務経験教員）	1	2	前期

授業概要	運動学で学習した内容を臨床的視点で身体運動について理解し、説明できる。
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	オリエンテーション レポートの書き方 二関節筋のまとめ	本講義の概要を理解する 演習時のレポートの書き方について理解する
2	二関節筋と関節可動域	二関節筋による関節可動域への影響について説明できる
3	関節運動と筋収縮	求心性収縮・遠心性収縮・等尺性収縮について説明できる
4	OKCとCKC	OKCとCKCについて説明できる 各筋におけるOKC, CKCの運動を考案し，その時の筋の収縮様式に関して説明できる
5		
6	力とモーメントと反作用	関節角度や重心位置による筋張力の変化について説明できる モーメントについて説明できる
7	歩行①	歩行に関する基本的な知識を理解することができる
8	歩行②	歩行に関する用語を理解するとともに，歩行の各層について調べることができる
9		
10	歩行③	歩行についてグループでまとめることができる
11		
12		
13	歩行④	歩行についてグループで発表することができる
14		
15	歩行⑤	歩行の各相における筋活動について説明することができる

教科書	『基本動作の評価と治療アプローチ （メジカルビュー社）』 『観察による歩行分析　（医学書院）』	履修条件	講義・演習ではPCを使用することもある。15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	『基礎運動学（医歯薬出版）』 「実践！動作分析 第2版（医歯薬出版）」	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	15回の講義の中で、適宜小テストを実施する。 小テストの結果と、定期テストの結果および課題提出を総合して成績に反映させる。		
備考	運動学・運動学演習を習得していることを前提に講義・演習を実施する		

☐ 選択　☑ 必修		☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
機能解剖学演習	千葉　馨 （実務経験教員）	1	2	後期
授業概要	解剖学・運動学の知識を統合し，身体運動を検査・治療方法等と関連付けられるように講義演習を行う。 本授業では担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの肉眼解剖教育の経験を活かして講義を展開する。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	外皮系の構造と機能	外皮の構造と機能を理解するとともに，分布する感覚受容器について説明できる。
2	骨格系の構造	各骨の名称や関節について説明できる。
3	肩甲帯・肩関節の 構造と運動	肩関節を構成する骨格・靭帯を見直し，肩甲帯ならびに肩関節の構造・運動・特徴を説明できる。
4	肘関節・手関節・手指の 構造と運動	肘関節・手関節・手指を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
5	骨盤・股関節の 構造と運動	骨盤・股関節を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
6	膝関節・足関節の 構造と運動	膝関節・足関節を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
7	足部の 構造と運動	足部を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
8	骨格構造総復習	骨格構造について各骨の名称や形状，特徴，連結について骨格模型を用いて説明できる
9	肩甲帯・肩関節の運動に関与する筋と運動	肩甲帯・肩関節に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
10	肘関節・手関節・手指の運動に関与する筋と運動	肘関節・手関節・手指に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
11	骨盤・股関節の運動に関与する筋と運動	骨盤・股関節に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
12	膝関節・足関節の運動に関与する筋と運動	膝関節・足関節に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
13	足部の運動に 関与する筋と運動	足部に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
14	末梢神経系の 構造と支配領域	運動の情報を伝える末梢神経系の構造，特に神経叢について理解し，その分布について説明できる
15	筋総復習	各筋の起始・停止・作用を説明できる

教科書	授業は配布資料に基づいて実施する	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	・塩田浩平，他監：グレイ解剖学 原著第4版 ・中村隆一，他：基礎運動学 第6版補訂	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・中間テスト，期末試験の内容をもって総合的に評価する ・総計の60%以上を合格とする		
備考	・授業資料を配布するので忘れずに授業に持ってくること ・分からない点を質問するなど教員をうまく活用し，知識の定着に努めること		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害学Ⅰ	佐藤　速太 （実務経験教員）	1	2	前期
授業概要	神経障害はPT・OTの治療対象の中核をなすものであり，臨床神経学の知識は直接治療技術に反映する　本科目は神経解剖から症候学まで必要不可欠かつ基本的な内容を網羅する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	神経機能解剖　①	中枢神経系（脳・脊髄）の解剖，伝導路，が理解できる
2	神経機能解剖　②	脳神経を再確認して，その機能について理解を深め，各疾患により発生する障害や症状について神経学的に説明できる
3	神経機能解剖　③	
4	リハビリテーションに深く関係する神経症状	上位運動ニューロン障害や下位運動ニューロン障害の症状の相違点を理解したうえで神経学的サインを理解できるようになる
5	神経症候学　①	「反射学」をベースにしたクライアントの神経学的な反応を理解し，障害の本質が推測できるようになる
6	神経症候学　②	大脳基底核や小脳の障害によって生じる錐体外路障害について理解し、疾患や臨床所見を想像できるようになる。
7	神経症候学　③	中枢神経の損傷によって生じる脳血管疾患などの中枢神経疾患にまつわる障害像を推測できるようになる
8	振り返り	前半部分で理解した中枢神経系をまとめ、知識の確認を行う
9	神経変性疾患の症候学　①	認知症など大脳皮質の変性によって生じる疾患の症状から、神経学的な意味を理解できる。
10	神経変性疾患の症候学　②	前回に引き続き大脳基底核の変性によって生じる疾患の症状から、神経学的な意味を理解できる。
11	神経筋疾患　各論　①	リハビリテーションと深くかかわる神経筋疾患について論じ、神経学的な視野を広げ，理学療法や作業療法の具体的な介入について理解することができるようになる
12	神経筋疾患　各論　②	
13	神経筋疾患　各論　③	
14	神経筋疾患　各論　④	
15	神経筋疾患　各論　⑤	

教科書	病気がみえる　vol.7　脳・神経 メディックメディア社	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ正しい病巣診断のコツ メディカルビュー社	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害学Ⅱ	平塚　健太 （実務経験教員）	1	2	前期

授業概要	神経障害学Ⅰの内容を踏まえ，本科目は具体的な神経疾患とその症状・治療について論じる
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	脳血管疾患　①	多種の脳血管疾患の疫学と診断について理解できる
2	脳血管疾患　②	脳血管疾患に起因する症状や治療法について理解できる
3	脳卒中　①	脳卒中の危険因子・脳卒中の分類及び特徴について理解できる
4	脳卒中　②	脳卒中の分類別における症状や治療について理解できる
5	脳卒中　③	脳卒中の急性期における治療や特徴について理解できる
6	脳卒中　④	脳卒中の急性期におけるリスク管理について理解できる
7	脳卒中　⑤	脳卒中の回復期及び維持期における治療や特徴について理解できる
8	認知症/高次脳機能障害①	認知症・失語症・失認・失行等の高次脳機能障害の特徴について理解できる
9	認知症/高次脳機能障害②	認知症・高次脳機能障害の治療・姿勢定位障害について理解できる
10	パーキンソン病	高齢者によくみられるパーキンソン病の症状や治療法を説明できる
11	神経筋疾患　①	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる
12	神経筋疾患　②	各種の変性疾患(SCD・MS・PSP等)について理解できる
13	脊髄損傷	脊髄損傷の症状，高位診断，神経学的評価法などを説明できる
14	医用画像　①	実際の症例や画像情報などから症状・障害を推測し医学的に考察できる
15	医用画像　②	

教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
精神医学	石田　裕二 （実務経験教員）	1	1	後期
授業概要	精神に関する基礎知識から病理までの知識を身に着け，リハビリテーションを前提に理解を進めることができるよう講義を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	総論　①	精神医学とは何か，その概略を理解できる
2	総論　②	精神疾患の分類，症状論，検査，神経症性障害とその周辺疾患について概略を理解できる
3	総論　③	様々な治療（薬物療法，精神療法，リハビリテーション，心理学的アプローチ，認知行動療法など）について，その概略を理解できる
4	総論　④	認知症，器質性精神病，薬剤性精神障害について理解できる
5	各論　①　気分障害	気分障害の分類や症状について理解できる
6	各論　②　統合失調症	統合失調症の分類や症状について理解できる
7	各論　③　神経症性障害	様々な神経症領域の障害について，その症状や環境要因の関係などを理解できる
8	各論　④　人格障害	様々な人格障害について，その症状や環境要因の関係などを理解できる
9	各論　⑤　依存症	アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる
10	各論　⑥ 自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラム症（ASD）や広汎性発達障害について理解できる
11	各論　⑦　てんかん	てんかんの分類や症状について理解できる
12	各論　⑧　認知症	認知症の原因疾患，分類，症状の特徴などが理解できる
13	治療学　①	各種の精神疾患に対する治療的介入法（薬物療法，精神療法，心理学的アプローチ，作業療法など）について，期待できる効果について理解できる
14	治療学　②	
15	リエゾン精神医学	リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる

教科書	精神医学　第4版増補版（医学書院）	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	精神医学テキスト　改訂第5版（南江堂）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害学	平塚健太　石川竜乃介 （実務経験教員）	1	2	前期

授業概要	運動器に纏わる疾患について発生と治療法について知り，理解できるよう講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	総論①　骨の発生と成長 軟骨・関節の基本構造	骨の発生と成長と軟骨・関節の基本構造について理解できる
2	総論② 神経損傷・末梢神経障害	末梢神経障害の症状と治療について理解できる
3	各論①　肩・上肢	肩に見られる様々な疾患の症状や障害について学び，整形外科的な治療について理解できる
4	各論②　肩・上肢	肘に見られる様々な疾患の症状や障害について学び，整形外科的な治療について理解できる
5	各論③　肩・上肢	前腕・手に見られる様々な疾患の症状や障害について学び，整形外科的な治療について理解できる
6	各論⑤股関節・膝・足部	変形性股関節症の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
7	各論⑥股関節・膝・足部	変形性膝関節症の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
8	各論⑥股関節・膝・足部	靭帯損傷の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
9	各論⑦股関節・膝・足部	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折等）の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
10	各論⑧股関節・膝・足部	切断の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
11	各論⑨　脊柱疾患	圧迫骨折・破裂骨折・狭窄症の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
12	各論⑩　脊柱疾患	頚髄症・末梢神経障害（上肢を中心に）の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
13	各論⑪　脊柱疾患	腰痛・椎間板ヘルニアの診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
14	各論⑨　　褥瘡	褥瘡の病態について理解を深め，それらの診断や治療法について概略を理解できる
15	各論⑩　　熱傷	熱傷の深度や面積の判定，気道熱傷など，熱傷の病態について理解を深め，それらの治療法について概略を理解できる

教科書	病気がみえるvol.11　運動器・整形外科	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
症例検討演習Ⅰ	平塚 健太、相馬 栄大、工藤 達也、羽澤 晃士、外舘 洸平(実務経験教員)	1	2	後期
授業概要	同職種，他職種との連携を主体にケース課題や事例について考えを表出できるよう演習を行うので活発な発言を期待する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション①	症例検討の意義や症例報告に必要な情報を理解できる
2	オリエンテーション②	症例検討の意義や症例報告に必要な情報を取得できる
3	症例報告の実際①	臨床実習で見学した症例についてディスカッションおよび発表できる
4	症例報告の実際②	臨床実習で見学した症例についてディスカッションおよび発表できる
5	症例検討①	運動器疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる
6	症例検討②	運動器疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる
7	症例検討③	症例を通じて多職種連携に関してディスカッションおよび発表できる
8	症例検討④	症例を通じて多職種連携に関してディスカッションおよび発表できる

教科書	適宜	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
症例検討演習Ⅱ	平塚 健太、相馬 栄大、工藤 達也、 羽澤 晃士、外舘 洸平(実務経験教員)	1	2	後期
授業概要	同職種，他職種との連携を主体にケース課題や事例について考えを表出できるよう演習を行うので活発な発言を期待する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画		
1	症例検討①	症例を通じて多職種連携に関してディスカッションおよび発表できる
2	症例検討②	症例を通じて多職種連携に関してディスカッションおよび発表できる
3	症例検討③	神経筋疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる
4	症例検討④	神経筋疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる
5	症例検討⑤	高次脳機能障害の症例についてディスカッションおよび発表できる
6	症例検討⑥	高次脳機能障害の症例についてディスカッションおよび発表できる
7	症例検討⑦	脳卒中の症例についてディスカッションおよび発表できる
8	まとめ	症例検討演習Ⅰ・Ⅱを振り返り、解釈することができる

教科書	適宜	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	外舘　洸平 （実務経験教員）	1	1	後期
授業概要	リハビリテーション医学が対象とする運動器障害・神経障害・内部障害の特徴、各疾患で出現しうる症状の概要と検査方法、および各疾患に対するリハビリテーションの流れについて講義を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	総論	リハビリテーション医学の対象、リハビリテーションの流れについて理解できる
2 3 4	運動器障害	運動器障害骨折・変形性関節症・ヘルニア・リウマチ(自己免疫疾患)・切断・スポーツ外傷の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
5 6	中枢神経障害	中枢神経障害(脳卒中・脳疾患・脊髄疾患)の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
7	末梢神経障害	末梢神経障害の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
8 9	神経筋疾患	神経筋疾患(パーキンソン病・多発性硬化症・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症)の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
10 11 12	内部障害	内部障害(呼吸器疾患、循環器疾患、内分泌疾患、悪性新生物の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
13 14	発達障害	発達障害(脳性麻痺、筋ジストロフィー症、ダウン症、二分脊椎)の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
15	まとめ	各領域で特徴的な症状に対するリハビリテーションについて理解できる

教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・小テスト，中間テスト，期末テスト，出席点(振り返りアンケートの記入状況)の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション概論	佐藤 速太 （実務経験教員）	1	1	前期
授業概要	リハビリテーションの理念・概要について、PT・OTとリハビリテーションに関わる専門職との連携などについて理解できるよう講義・グループワークを行う。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの語源・定義，目的について理解する。
2	医療・福祉に関わる 専門職・チーム医療	医療及び保健・社会福祉に関わる専門職とチーム医療について調べる。
3	医療・福祉に関わる 専門職・チーム医療	医療及び保健・社会福祉に関わる専門職とチーム医療について調べる。
4	障害モデル	障害モデル（ICIDH、ICF）について理解できる。
5	障害モデル	障害モデル（ICIDH、ICF）について理解できる。
6	ICFフレームワーク	症例を通してICFフレームワークを実践できる。
7	ノーマライゼーション	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解できる。
8	総合演習	これまで学んできたことをもとに、リハビリテーションについて説明することができる。

教科書	必要に応じて提示する	履修条件	8回の講義なので3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・グループワークや課題への取り組み、テストを成績に反映する。		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域包括ケアシステム論	工藤　達也 (実務経験教員)	1	2	後期
授業概要	医療・福祉，地域リハビリテーションを担う様々な専門職の役割を理解できるような授業を展開し，多職種連携による包括的な地域医療福祉活動の必要性を論じる			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画		
1	地域包括ケアシステムⅠ	地域包括ケアシステムの概念や背景，現代における地域包括ケアシステムの重要性について理解できる
2	地域包括ケアシステムⅡ	地域包括支援センターの役割や地域包括ケア会議の概要を理解できる
3	ニーズの把握と理解	対象者(生活者)のニーズの捉え方やアプローチ方法を理解できる
4	地域包括ケアシステムにおけるセラピストの役割	地域包括における理学療法士，作業療法士の役割を理解できる
5	多職種連携・チームアプローチ	多職種連携・チームアプローチの理念と意義について理解できる
6	地域包括ケアシステムにおける社会福祉士の役割	地域包括ケアシステムにおける社会福祉士の役割について理解できる
7	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解できる
8	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジャーの役割	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジャーの役割について理解できる
9	多職種連携演習Ⅰ	多職種連携演習(グループワーク)を通じて，多職種連携の重要性や各職種の役割を理解できる
10	多職種連携演習Ⅱ	
11	多職種連携演習Ⅲ	
12	多職種連携演習Ⅳ	
13	多職種連携演習Ⅴ	
14	多職種連携演習Ⅵ	
15	まとめ	多職種連携における各職種の役割および包括的な地域医療福祉活動の必要性を理解できる

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	地域包括ケアにおけるPT・OTの役割 個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	15回の講義のなかで，適宜課題を実施し，課題提出や内容を総合して成績に反映させる		
備考	グループワークも適宜行う		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法概論	工藤　達也 （実務経験教員）	2	1	前期
授業概要	理学療法の定義と歴史を理解し医療ならびに社会全体における理学療法の位置づけ，基本的な理学療法の理論，知識と技術について把握する．また，理学療法を施行する上で関わる障害や疾患について理解を深める．			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション	理学療法概論で学習する内容や基礎科目との関連性を理解できる
2	理学療法の定義と歴史	理学療法の定義と歴史について理解できる．
3 4	理学療法に関わる法律	理学療法士および作業療法士法について理解できる．
5 6	理学療法の流れ	理学療法が行われる際の一連の流れ，臨床思考過程について理解できる．
7 8	疾患と機能障害①	疾患と機能障害の関連性やそれぞれの意味について理解できる．また，疾患についてのグループワーク学習を通じて疾患と機能障害について理解を深める．
9 10	疾患と機能障害②	疾患と機能障害の関連性やそれぞれの意味について理解できる．また，疾患についてのグループワーク学習を通じて疾患と機能障害について理解を深める．
11 12	住環境と理学療法	家屋改修や福祉用具など在宅における理学療法士の関わりを理解できる． 歩行補助具体験を通じて，各歩行補助具の特徴やメリット・デメリットを理解できる． また，屋外での車椅子乗車・操作体験を通じて，屋外での移動に対する理解を深める．
13 14	病院の機能と役割①	理学療法士の主な活動の場である病院について，病期の違いによる役割や実施されているリハビリテーション，病棟機能などを理解できる．又、函館市の主要な病院についての調べ学習を通じて理解を深める．
15 16	病院の機能と役割②	理学療法士の主な活動の場である病院について，病期の違いによる役割や実施されているリハビリテーション，病棟機能などを理解できる．又、函館市の主要な病院についての調べ学習を通じて理解を深める．
17 18	理学療法に必要な知識 重心と支持基底面	重心と支持基底面の関係性や，基本動作における重心および支持基底面の変化について理解できる．また，基本動作体験を通じて理解を深める．

19 20	理学療法に必要な知識 関節可動域とその評価	関節の構造や機能，関節可動域の定義や評価・測定方法について理解できる． 関節可動域制限の主な原因について理解できる． 疑似的な関節可動域制限の状態を体験することでADLに及ぼす影響について理解できる．
21 22	理学療法に必要な知識 関節可動域制限と運動療法	関節可動域訓練の手技方法や適応について理解できる．また，関節可動域訓練の実技を通じて理解を深める．
23 24	理学療法に必要な知識 筋力とその評価	筋肉の機能や構造，筋力の定義や評価・測定方法について理解できる． 筋力低下の主な原因について理解できる． 各収縮様式の違いやOKCとCKCの違いについて実技を通じて理解を深める．
25 26	理学療法に必要な知識 筋力低下と運動療法	筋力増強訓練の手技方法や作用および効果について理解できる．また，筋力増強訓練の実技を通じて理解を深める．
27 28	理学療法に必要な知識 リスク管理	リスク管理の意義や必要性，理学療法時の実践方法について理解できる． バイタルサインの定義や評価・測定方法について理解できる．
29 30	まとめ	理学療法および理学療法士に関する基本的知識，理学療法の対象や主な治療手段について理解できる．

教科書	適宜、資料を配布する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
基礎理学療法学Ⅰ	工藤　達也 （実務経験教員）	2	1	後期
授業概要	理学療法を行う上で基礎となる骨や筋の触診技術を習得し、解剖学・運動学分野の総合的理解を深める			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1 2	オリエンテーション 肩甲帯の触診	オリエンテーション， 肩甲帯のランドマークを理解し，触診方法を習得できる
3 4	上腕・前腕の触診	上腕・前腕のランドマークを理解し，触診方法を習得できる
5 6	骨盤の触診	骨盤のランドマークを理解し，触診方法を習得できる
7 8	大腿・下腿の触診	大腿・下腿のランドマークを理解し，触診方法を習得できる
9 10	脊柱の触診	脊柱の骨の位置関係を理解し，触診方法を習得できる
11 12	総合演習 ①	各ランドマークの触診の総合演習を実施し，臨床で必要な技術を習得できる
13 14	肩甲帯周囲筋触診	肩甲帯周囲の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
15 16	上腕部の筋の触診	肩甲帯周囲・上腕部の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
17	前腕部の筋の触診	上腕・前腕部の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる

18	前腕部の筋の触診	上腕・前腕部の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
19 20	総合演習 ②	肩甲帯・上肢の主要な筋の触診の総合演習を実施し，臨床で必要な技術を習得できる
21 22	骨盤周囲筋の触診	骨盤周囲の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
23 24	大腿部の筋の触診 ①	大腿前面の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
25 26	大腿部の筋の触診 ②	大腿後面および側面の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
27 28	下腿部の筋の触診	下腿部の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
29 30	総合演習 ③	骨盤・下肢の主要な筋の触診の総合演習を実施し，臨床で必要な技術を習得できる

教科書	資料を適宜配布する	履修条件	30回の講義なので，７回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	グレイ解剖学 原著第4版 基礎運動学 第6版	留意事項等	講義時間内で技術を習得できるよう集中して臨むこと
成績評価	・30回の講義のなかで，適宜実技テストを実施する ・実技テスト，課題レポートの結果を総合して成績に反映させる		
備考	触診を行うため，ある程度の肌の露出が可能なようにできればTシャツ・短パンで講義に臨むこと		

☐ 選択 ☑ 必修		☐ 講義 ☑ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
基礎理学療法学Ⅱ	外舘 洸平 （実務経験教員）	2	2	前期
授業概要	理学療法評価の基礎となる姿勢・動作観察の方法を学び、文章として報告でききるようにグループワークを中心に演習していく。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1 2	オリエンテーション	姿勢・動作観察の目的を理解でき、文章化に必要な基礎的な知識を習得できる
3	姿勢観察(立位)①	立位姿勢の特徴や関連するバイオメカニクスを理解できる
4	姿勢観察(立位)②	立位姿勢の観察、および表記方法を理解できる
5	動作観察(起立動作)①	起立動作のバイオメカニクスを理解できる
6	動作観察(起立動作)②	起立動作の観察、および表記方法を理解できる
7	姿勢分析(立位)	立位姿勢の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
8	動作分析(起立動作)	起立動作の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
9	動作観察(着座動作)①	着座動作のバイオメカニクスを理解できる
10	動作観察(着座動作)②	着座動作の観察、および表記方法を理解できる
11	姿勢観察(臥位)①	臥位姿勢の特徴や関連するバイオメカニクスを理解できる
12	姿勢観察(臥位)②	臥位姿勢の観察、および表記方法を理解できる
13	動作観察(寝返り動作)①	寝返り動作のバイオメカニクスを理解できる
14	動作観察(寝返り動作)②	寝返り動作の観察、および表記方法を理解できる
15	姿勢分析(臥位)	臥位姿勢の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
16	動作分析(寝返り動作)	寝返り動作の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
17	姿勢観察(座位)①	座位姿勢の特徴や関連するバイオメカニクスを理解できる
18	姿勢観察(座位)②	座位姿勢の観察、および表記方法を理解できる

19	動作観察(起居動作)①	起居動作のバイオメカニクスを理解できる
20	動作観察(起居動作)②	起居動作の観察、および表記方法を理解できる
21	姿勢分析(座位)	座位姿勢の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
22	動作分析(起居動作)	寝返り動作の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
23	動作観察(段差昇降)①	段差昇降動作のバイオメカニクスを理解できる
24	動作観察(段差昇降)②	段差昇降動作の観察、および表記方法を理解できる
25	動作観察(床上動作)①	床上動作のバイオメカニクスを理解できる
26	動作観察(床上動作)②	床上動作の観察、および表記方法を理解できる
27	動作分析①	動作指導・トレーニングを想定して、患者役の近くから起立・着座動作(スクワット)、ランジ動作などを観察・分析を行う。動作の修正を徒手的に行い、治療的な視点を持つことができる
28	動作分析②	
29	動作分析③	
30	動作分析④	

教科書	基本動作の評価と治療アプローチ （メジカルビュー社）	履修条件	30回の講義なので，12回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	グループワークでの課題、個人でのレポート課題、期末テストの成果をもとに、総合的に判断する		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法評価学演習Ⅰ	相馬　栄大 （実務経験教員）	2	1	後期
授業概要	評価は，効果的な理学療法を実施するうえできわめて重要な理学療法プロセスに位置づけられる　本科目では，評価の意義や目的，その一連の進め方について学習する　また，理学療法における基本的検査・測定技術である関節可動域測定法，筋力測定法について講義および演習を通して習得する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーションおよび評価学概論	本授業の概要，学習目標・内容，スケジュール，学習方法の説明，評価とは何かを理解できる
2	一般的評価事項	問診・観察・面接（すべての始まり）を通して，「見立て」にはどのような情報が必要か理解できる
3	関節可動域測定 総合演習①	関節可動域（ROM）とはなにか，また，臨床におけるROMの情報 （具体的な数値，抵抗感，end feel など）の重要性についても理解できる
4	肩関節の可動域測定①	肩関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
5	肩関節の可動域測定②	肩関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
6	肘関節の可動域測定	肘関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
7	手関節の可動域測定	手関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
8	関節可動域測定 総合演習　②	関節可動域測定の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
9	股関節の可動域測定①	股関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
10	股関節の可動域測定②	股関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
11	膝関節の可動域測定	膝関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
12	足関節の可動域測定	足関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
13	体幹・頚部の可動域測定	体幹・頸部のROM測定を演習し，手技を習得できる
14	関節可動域測定 総合演習　④	関節可動域測定の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
15	関節可動域測定 総合演習　⑤	関節可動域測定の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
16	関節可動域測定 総合演習　⑥	関節可動域測定の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
17	筋力検査総合演習①	筋力とは何かが理解できる。徒手筋力検査（MMT）の概略，臨床的意義について概略を理解できる。
18	肩関節の筋力検査	肩関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる

19	肩甲骨の筋力検査①	肩甲骨のMMT測定を演習し，手技を習得できる
20	肩甲骨の筋力検査②	肩甲骨のMMT測定を演習し，手技を習得できる
21	肘関節の筋力検査	肘関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
22	手関節の筋力検査	手関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
23	股関節の筋力検査①	股関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
24	股関節の筋力検査②	股関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
25	膝関節の筋力検査	膝関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
26	足関節・足部の筋力検査	足関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
27	体幹の筋力検査	体幹のMMT測定を演習し，手技を習得できる
28	頚部の筋力検査	頚部のMMT測定を演習し，手技を習得できる
29	筋力検査総合演習②	筋力検査の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
30	筋力検査総合演習③	筋力検査の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる

教科書	・新徒手筋力検査法（第9版） ・基礎運動学（第6版） ・理学療法評価学（標準理学療法学　専門分野）	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	・運動療法のための解剖学的触診技術上肢 ・運動療法のための解剖学的触診技術体幹下肢	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義のなかで、適宜小テスト（筆記・実技）を実施する ・小テストの結果と期末テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法評価学演習Ⅱ	工藤　達也 （実務経験教員）	2	2	前期

授業概要	評価の意義や目的，その一連の進め方について学習する．また，理学療法における基本的検査・測定技術であるバイタルサイン測定，形態測定，感覚・知覚検査，反射・病的反射，片麻痺機能検査，協調性検査， 姿勢反射・バランス・平衡機能検査，筋緊張検査などを講義および演習を通して習得する．
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	理学療法評価の意義・目的	理学療法評価の意義・目的やその流れと，その重要性について理解できる
2	医療面接	医療面接の目的や流れ，コミュニケーション方法，質問方法などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
3 4	ROM-T，MMTの総演習	ROM-T，MMTの総演習を通じて，臨床に必要な態度・技能・知識を習得できる
5 6	バイタルサイン測定	生命徴候であるバイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸・体温)の測定の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
7 8	形態測定	四肢長および周径といった形態測定の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
9 10	表在感覚検査	体性感覚のひとつである表在感覚検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
11 12	深部感覚検査	体性感覚のひとつである深部感覚検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
13 14	総合演習①	バイタルサイン測定，形態測定，表在感覚検査，深部感覚検査の総演習を通じて，臨床に必要な態度・技能・知識を習得できる
15 16	反射検査	深部腱反射や表在反射，病的反射といった反射の検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
17 18	片麻痺機能検査①	片麻痺の運動機能回復の過程を評価するBrunnstrom Recovery Stage(BRS)や上田式 12段階片麻痺機能検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し， 演習を通じて手技を習得できる

19 20	片麻痺機能検査②	片麻痺の運動機能回復の過程を評価するBrunnstrom Recovery Stage(BRS)や上田式 12段階片麻痺機能検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し， 演習を通じて手技を習得できる
21 22	筋緊張検査	錐体路障害，錐体外路障害により出現する筋緊張異常の評価である筋緊張検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得 できる
23 24	協調性検査	運動失調を評価である協調性検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
25 26	姿勢反射・ バランス機能検査	外乱による姿勢反射や平衡機能の反応，パフォーマンスとしてのバランス検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得 できる
27 28	脳神経検査	脳神経の解剖や機能について把握し，各検査の意義や方法について理解することができる
29 30	総合演習②	反射検査，片麻痺機能検査，協調性検査，バランス機能検査の総演習を通じて，臨床に必要な態度・技能・知識を習得できる

教科書	理学療法評価学 (標準理学療法学 専門分野)	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席 すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ 第3版 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	30回の講義のなかで、適宜小テスト(筆記・実技)を実施する. 授業参加への積極性と小テストの結果，定期テストの結果を総合して成績に反映させる.		
備考	毎時間，実技を行うので，動きやすい服装で授業に臨むこと		

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法評価学演習Ⅲ	外舘　洸平 （実務経験教員）	2	2	後期
授業概要	これまで修得した知識を整理し，技能の向上および患者とのコミュニケーション，知識の具現化を図る　なお，演習では学内において臨床現場を想定した医療面接や検査測定に関する客観的臨床能力試験（以下，OSCE　）を実施する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション①	理学療法における評価の流れと、その重要性について理解することができる
2	オリエンテーション②	
3	評価の解釈①	関節可動域測定の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
4	評価の解釈②	
5	評価の解釈③	
6	評価の解釈④	
7	筋力検査①	頭頚部のMMTの演習を通して、その手技を習得できる
8	筋力検査②	
9	筋力検査③	体幹部のMMTの演習を通して、その手技を習得できる
10	筋力検査④	
11	評価の解釈⑤	筋力検査(徒手筋力検査法)の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
12	評価の解釈⑥	
13	評価の解釈⑦	
14	評価の解釈⑧	
15	評価の解釈⑨	バイタルサインの測定、フィジカルアセスメントの実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
16	評価の解釈⑩	形態測定、骨のランドマークの触診の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
17	評価の解釈⑪	筋の触診方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
18	評価の解釈⑫	

19	評価の解釈⑬	筋緊張検査、腱反射、感覚検査の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
20	評価の解釈⑭	バランス評価、片麻痺機能検査の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
21	姿勢・動作分析①	起居動作のバイオメカニクスと理解することができ、実際の患者の姿勢・動作観察および分析と、その内容について記載することができる
22	姿勢・動作分析②	
23	姿勢・動作分析③	起立・着座動作のバイオメカニクスと理解することができ、実際の患者の姿勢・動作観察および分析と、その内容について記載することができる
24	姿勢・動作分析④	
25	歩行評価①	歩行動作のバイオメカニクスを理解することができ、実際の患者の姿勢・動作観察および分析と、その内容について記載することができる
26	歩行評価②	
27	歩行評価③	代表的な疾患の患者の異常歩行の観察・分析を実践し、その内容について記載することができる
28	歩行評価④	
29	総合演習①	整形外科疾患、中枢神経疾患、内部疾患についての代表的な疾患に対して、実施すべき評価項目の列挙、実施計画の立案を行い、実際に実施することができる
30	総合演習②	

教科書	理学療法評価学第6版補訂版 （金原出版）	履修条件	30回の講義なので，７回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ 第3版 講義内で適宜参考資料を配布する	留意事項等	実技練習は適宜行うこと
成績評価	・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害理学療法治療学	平塚　健太 （実務経験教員）	1	2	後期
授業概要	リハビリテーションの中核的対象となる神経障害について深く学び，治療技術を臨床に反映できるよう実践的な内容を学ぶ			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	脳卒中と随意運動障害	随意運動のメカニズムと障害が生じる脳画像について理解できる
2	随意運動障害に対する理学療法1	脳卒中患者に起因する随意運動の障害に対する理学療法を理解できる
3	随意運動障害に対する理学療法2	脳卒中患者に起因する随意運動の障害に対する理学療法を理解できる
4	随意運動障害に対する理学療法3	脳卒中患者に起因する随意運動の障害に対する理学療法を理解できる
5	感覚障害に対する理学療法	脳卒中患者に起因する感覚障害の障害と理学療法を理解できる
6	脳卒中の評価１	脳卒中患者に特有の評価を理解できる
7	脳卒中の評価２	脳卒中患者に特有の評価を理解し、実践できる
8	脳卒中の評価３	脳卒中患者に特有の評価を理解し、実践できる
9	脳卒中の評価４	脳卒中患者に特有の評価を理解し、実践できる
10	脳卒中の歩行障害１	脳卒中患者に特有の歩行を理解できる
11	脳卒中の歩行障害２	脳卒中の歩行障害に対する理学療法を理解できる
12	姿勢障害に対する理学療法	姿勢定位障害に対する理学療法を理解できる
13	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病に対する評価と治療を理解できる
14	神経筋疾患の理学療法	神経筋疾患に対する評価と治療を理解できる
15	脊髄損傷	脊髄損傷に対する評価と治療を理解できる

教科書	神経障害理学療法学I（15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト） 神経障害理学療法学II（15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト）	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐ 選択 ☑ 必修		☑ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害理学療法治療学	工藤 達也 （実務経験教員）	1	2	後期
授業概要	高齢者や在宅クライエントによくみられる内部障害について深く学び，治療技術を臨床に反映できるよう実践的な内容を学ぶ			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	循環器系の機能と構造	心臓および血管の構造と特徴について理解できる
2	虚血性心疾患	虚血性心疾患(心筋梗塞，狭心症)の病態および理学療法について理解できる
3	喀痰と吸引	喀痰・吸引について意義と方法を理解し，手技を習得できる
4	心不全	心不全の病態および理学療法について理解できる
5	不整脈 ①	不整脈の発生機序および分類，心電図の見方について理解できる
6	不整脈 ②	各不整脈における心電図の特徴的所見について理解できる
7	呼吸器系の機能と構造	気管および肺の構造と特徴および呼吸不全の病態について理解できる
8	慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態および理学療法について理解できる
9	周術期の理学療法	周術期(術前・術後)における評価および理学療法について理解できる
10	人工呼吸管理と理学療法	人工呼吸器の構造および基本的なモード，人工呼吸管理における理学療法について理解できる
11	糖尿病 ①	糖尿病の病態および合併症，治療内容について理解できる
12	糖尿病 ②	糖尿病の理学療法および糖尿病足病変について理解できる
13	腎疾患	腎機能障害の分類および症状，理学療法について理解できる
14	がん ①	悪性腫瘍の種類，病態や治療法について理解できる
15	がん ②	緩和ケアを含めたがんへの介入法について理解できる

教科書	シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改定第3版，南江堂	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	なるほどなっとく！内科学 改定2版，南山堂	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害理学療法治療学演習	相馬 栄大 （実務経験教員）	1	2	後期
授業概要	内部障害理学療法治療学で学習した知識を基盤として，具体的なリハビリテーションについて論じ，臨床的な評価，治療の技能，喀痰吸引の技術を身に着けることができるよう演習する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	糖尿病　①	糖尿病に対する機能的作業療法の介入，生活指導の趣味レーションができる
2	糖尿病　②	糖尿病患者の在宅リハのマネージメントができる
3	腎疾患	慢透析患者への具体的なアプローチを理解できる
4	悪性腫瘍	悪性腫瘍の種類や進行度，生命予後を踏まえたアプローチ，緩和ケアを含めた具体的な介入法について理解できる
5	呼吸器疾患　①	各種の計測機器（聴診器やパルスオキシメーターなど）を使った評価ができるようになる
6	呼吸器疾患　②	呼吸リハビリテーションについて実践を通じて経験し理解を深める
7	循環器疾患　①	運動負荷試験を実践し呼吸器と循環器の機能的関連性について理解できる
8	循環器疾患　②	循環器疾患と全身状態との関係を医学的に説明できる
9	循環器疾患　③	心筋梗塞の回復過程に即したADL指導ができるようになる
10	高齢者の運動機能障害	廃用症候群をアセスメントし治療計画を立案できるようになる
11	訪問看護　①	在宅クライエントに対する看護アセスメントの概略が理解できる
12	訪問看護　②	在宅クライエントに対する具体的な看護業務について理解できる
13	高齢者の運動機能障害　①	長期臥床や廃用の影響を評価し治療プログラムを立案できる
14	高齢者の運動機能障害　②	フレイルやサルコペニアについてそれらの概念を学習する
15	まとめ	内部障害への具体的なリハビリテーションを計画し実施することができる

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
物理療法学演習	外舘　洸平 （実務経験教員）	1	1	後期
授業概要	種々の物理療法の原理，生体に与える生理学的作用，実施上の適応と禁忌，物理療法プログラムの実際を理解する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	物理療法総論・リスク管理	物理療法の概要，物理療法におけるリスク管理について理解することが出来る
2	温熱療法　①	温熱療法の定義・分類，温熱療法の基礎と生理学的作用，ホットパック・パラフィンの適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
3	温熱療法　②	超短波療法・極超短波療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
4	温熱療法　③	超音波療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
5	寒冷療法	寒冷療法の定義・分類，寒冷療法の基礎と生理学的作用，寒冷療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
6	水治療法	水治療法の定義・分類，水治療法の基礎と生理学的作用，水治療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
7	演習①	温熱療法，寒冷療法，水治療法の実際（機器の使い方）
8	光線療法　①	光線療法の定義・分類，光線療法の基礎と生理学的作用，レーザー療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
9	光線療法　②	赤外線療法，紫外線療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
10	電気刺激療法　①	電気刺激療法の定義・分類・基礎と生理学的作用について理解することが出来る
11	電気刺激療法　②	経皮的電気神経刺激，干渉波刺激の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
12	電気刺激療法　③	神経筋電気刺激，機能的電気刺激の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
13	牽引療法	牽引療法の定義・分類，牽引療法の基礎と生理学的作用，牽引療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
14	マッサージ療法	マッサージ療法の定義・分類，マッサージ療法の基礎と生理学的作用，マッサージ療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
15	演習②	光線療法，電気刺激療法，牽引療法，マッサージ療法の実際（機器の使い方，実技）

教科書	PT・OTビジュアルテキスト　エビデンスから身につける物理療法 第2版，羊土社	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	最新理学療法学講座 物理療法学,医歯薬出版株式会社 Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学,メジカルビュー社	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・課題レポート，中間テスト，定期テスト，出席点(振り返りアンケートの記入状況)の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動療法学	工藤　達也 （実務経験教員）	1	2	前期
授業概要	本科目では，関節可動域制限や筋力低下といった基本的な運動障害の原因について理解するとともに各種運動療法を実施するうえで必要となる基礎理論について学習し，基本的な運動療法について実技演習を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	総論	運動療法の定義や目的，進め方，実施時におけるリスク管理について理解できる
2	運動学習	運動学習理論および運動療法における運動学習の応用方法について理解できる
3	関節構造と運動	基本的な関節構造と関節運動，関節運動に制限を及ぼす病態について理解できる
4	関節可動域訓練	関節可動域訓練の目的や種類，基本的手技について理解できる
5	演習①	基本的な関節可動域訓練を実施でき，End feelについて理解できる
6	ストレッチング	ストレッチングの目的や理論，基本的手技について理解できる
7	演習②	基本的なストレッチングを実施でき，ストレッチング肢位について理解できる
8	筋力と運動	骨格筋の構造と筋力増強のメカニズムについて理解できる
9	筋力増強訓練	筋力増強訓練の目的や理論に応じた基本的手技について理解できる
10	演習③	基本的な筋力増強運動を実施でき，収縮様式や運動連鎖の特徴について理解できる
11	運動と呼吸機能	運動と呼吸機能の関連および運動が呼吸に与える影響について理解できる
12	運動と循環機能	運動と循環機能の関連および運動が循環に与える影響について理解できる
13	運動と代謝機能	運動と代謝機能の関連および運動が代謝に与える影響について理解できる
14	持久力増強運動	全身持久力トレーニングの原則やその効果，実施方法について理解できる
15	演習④	機器を用いた全身持久力トレーニングについて，具体的な運動処方を実技演習を通じて理解できる

教科書	運動療法学-障害別アプローチの理論と実際-第2版	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	講義内で適宜参考資料を配布する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する. 小テストの結果と定期テストの結果および課題の成績を総合して成績に反映させる.		
備考	適宜，実技を行うので，動きやすい服装で授業に臨むこと		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
日常生活活動学	羽澤　晃士 （実務経験教員）	1	2	前期
授業概要	疾患や障害への理解を深め，それぞれの特徴に適した日常生活活動や介助方法について掘り下げて学習することを目的とする			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	ADLの概念　総論①	ADLの概念，ADLとQOLとの関連について理解することができる
2	ADLの分類　総論②	ADLとICFの関連，基本的日常生活活動（BADL），手段的日常生活活動（IADL），生活関連活動（APDL）について理解することができる
3	ADLの評価方法	BI（できるADL），FIM（しているADL）について理解することができる
4	脊髄損傷①	四肢麻痺の機能障害の概要について理解することができる
5	脊髄損傷②	四肢麻痺のADLの特徴や評価・介助方法，練習指導について，車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる
6	脊髄損傷③	
7	脊髄損傷④	対麻痺の機能障害の概要について理解することができる
8	脊髄損傷⑤	対麻痺のADLの特徴や評価・介助方法，練習指導について，車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる
9	脊髄損傷⑥	
10	脳卒中片麻痺①	脳卒中の機能障害の概要について理解することができる
11	脳卒中片麻痺②	脳卒中のADLの特徴や評価・介助方法，練習指導について，車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる
12	脳卒中片麻痺③	
13	リウマチ①	リウマチの機能障害の概要について理解することができる
14	リウマチ②	リウマチのADLの特徴や評価・介助方法，練習指導について，車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる
15	リウマチ③	

教科書	・PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると期末試験を受験できない
参考書	・脳卒中の機能評価－SIASとFIM[基礎編] ・標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テスト，期末試験の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
日常生活活動学演習	羽澤　晃士 （実務経験教員）	1	2	後期
授業概要	前期に引き続き，疾患や障害への理解を深め，それぞれの特徴に適した日常生活活動や介助方法について掘り下げて学習するとともに，起居移乗動作における介助技能を習得できるよう演習を行う。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	骨関節疾患①	変形性関節症の機能障害の概要について理解することができる
2	骨関節疾患②	変形性関節症のADLの特徴や評価・介助方法，動作指導について理解することができる
3	起居移乗介助	起居移乗介助の目的や留意点，それぞれの正常な運動パターンについて理解することができる
4 5	全介助を想定した 起居動作介助	全介助を想定したベッド上の移動，寝返り，起居動作介助時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
6 7	全介助を想定した 移乗動作介助	全介助を想定した環境設定を含む移乗準備，移乗介助時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
8 9	脳卒中片麻痺を想定した 起居動作介助	脳卒中片麻痺を想定したベッド上の移動，寝返り，起居動作介助時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
10 11	脳卒中片麻痺を想定した 移乗動作介助	脳卒中片麻痺を想定した環境設定を含む移乗準備，移乗介助時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
12 13	脳卒中片麻痺を想定した 移動動作介助	脳卒中片麻痺を想定した平地歩行，段差・階段昇降時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
14 15	総合演習	起居・移乗・移動介助における態度，知識，技能を習得し，実践能力を身につけることができる

教科書	・PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると単位を修得できない
参考書	・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編「Web動画付」	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テスト，期末試験，提出物の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
高次脳機能障害学	外舘　洸平 （実務経験教員）	1	2	前期
授業概要	様々な原因で生じる高次脳機能についての知識を習得し、症状別のリハビリテーションについて考えることができるように講義および評価演習を行う。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画		
1	高次脳機能障害学総論	高次脳機能障害とはなにか、リハビリテーションの流れについて理解できる
2	脳の構造と働き	脳の構造と部位ごとの働きについて理解できる
3	大脳の機能局在と障害	大脳の機能局在と、各部位が障害された場合の症状の概要を理解できる
4	脳画像読影	高次脳機能障害に関連するCT、MRI画像を読影することができる
5	空間認知障害 ①	半側空間無視を中心に、空間認知障害の発生メカニズムを理解できる
6	空間認知障害 ②	半側空間無視の評価と介入について理解できる
7	空間定位障害	Pusher現象を中心に、空間定位障害の発生メカニズムと評価、介入を理解できる
8	遂行機能障害	遂行機能障害の症状と評価、介入の際の注意点を理解できる
9	情動・社会的行動障害	情動・社会的行動障害の症状と評価、介入の際の注意点を理解できる
10	注意障害・記憶障害	注意障害・記憶障害の症状と評価、介入の際の注意点を理解できる
11	失行	失行の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる
12	失認	失認の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる
13	失語	失語の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる
14	認知症	認知症の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる
15	社会制度	高次脳機能障害の支援に必要な社会制度について理解できる

教科書	高次脳機能障害学 第3版　医歯薬出版	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・小テスト、期末テストの結果を総合して成績に反映する		
備考			

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　理学療法学科

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
コミュニケーション方法論演習	平塚　健太 （実務経験教員）	1	1	後期

授業概要	現在はコミュニケーションの方法は多様化している　それぞれのコミュニケーション方法についての使用例から，さらに社会人としての伝達方法であるプレゼン，レポート，レジュメ作成までを理解し，実施できるよう学んでほしい（手紙の書き方も含める）
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの定義と必要性を理解できる
2	コミュニケーションの種類	様々なコミュニケーション方法について提示し，適用と適用外について述べる
3	傾聴と質問	話の聞き方および質問の仕方を理解できる
4	会話のルールと質問の仕方	会話のルールやマナー・良質な質問を理解し、実践できる
5	異文化コミュニケーションと他者理解	様々な価値観を受け入れ、価値観を共有することができる
6	レポートの書き方	レポートの書き方について理解し，実践できる
7	資料の作り方とプレゼンテーション①	相手に伝わりやすい資料の作り方・プレゼンテーションを理解できる
8	資料の作り方とプレゼンテーション②	相手に伝わりやすい資料の作り方・プレゼンテーションを理解し、実践できる

教科書	資料を配布する	履修条件	pcを使用する 15回の講義なので４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション管理学Ⅰ	平塚　健太 （実務経験教員）	1	2	前期
授業概要	業務を実施するにあたり，リスクマネジメントや組織運営の観点からの個人の在り方までメタ認知を高めて行動できるよう講義を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	リハビリテーション管理学総論	リハビリテーション管理学の概念や背景について理解できる
2	医療機関の分類と組織	医療機関の分類や組織構成・役割について理解できる
3	医療保険と介護保険	理学療法業務に必要な医療保険・介護保険・社会保障について理解できる
4	診療・介護報酬制度	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる
5	組織と業務・労務管理	組織やチーム・人事考課や労働基準法について理解し、考えを述べることができる
6	リスク管理	医療安全・感染症管理・クレーム対応などのリスク管理を理解できる
7	卒前・卒後教育	生涯学習に至る教育体制や内容を理解し、考えを述べることができる
8	リーダーシップ・マネジメント	管理職としてあるべき姿勢を理解できる

教科書	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション管理学Ⅱ	平塚　健太 （実務経験教員）	1	2	後期
授業概要	リハビリテーション管理学Ⅰで学んだ内容をグループワークを通して、実践していく講義とする			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション	リハビリテーション管理学Ⅰの内容を理解できる
2	組織とキャリア①	組織文化や適切な組織づくりのための価値観を理解できる
3	組織とキャリア②	リハビリテーション分野におけるキャリアラダーについて理解できる
4	介護予防事業①	地域における介護予防事業の実態を理解できる
5	介護予防事業②	地域特性を活かした介護予防事業の提案ができる
6	臨床実習マネジメント	臨床実習における学生ならびにスタッフのマネジメントが理解できる
7	臨床教育マネジメント	臨床業務におけるスタッフの教育やマネジメントが理解できる
8	まとめ	管理職としてあるべき姿勢を理解できる

教科書	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストやレポート課題を実施する ・小テストの結果とレポート課題の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論Ⅰ	平塚 健太、相馬 栄大、工藤 達也、羽澤 晃士、外舘 洸平(実務経験教員)	1	3	前期
授業概要	臨床実習前の演習として，心構えや知識技術の補完をする			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画		
1	理学療法評価演習　①	インテークから情報収集，評価や治療の立案概要を理解できる
2	理学療法評価演習　②	神経学的検査，運動器の評価など，身体機能の評価を復習し，実践的な技能を身につける
3	理学療法評価演習　③	
4	ADLへの介入　①	基本動作の評価，治療的介入法を復習し，実践的な技能を身につける
5	ADLへの介入　②	
6	歩行　①	正常歩行の分析（歩容や定量的な分析）から評価基準を推定できる
7	歩行　②	各種の異常歩行の分析から，歩行訓練の方法を導き出せる
8	運動療法　①	各種の障害に対する運動療法を演習の中で学習し，実践的な能力を習得する
9	運動療法　②	
10	運動療法　③	
11	運動療法　④	
12	物理療法　①	各症状に対応する物理療法を復習し，各効能を理解する
13	物理療法　②	演習を通じて，治療器具の扱い方や禁忌事項などについて理解を深める
14	総括　①	診療記録の作成の方法，リハビリテーションカンファレンスへの対応など，実践的な演習の中で理学療法士としてのアイデンティティを高める
15	総括　②	既習の学習内容を総括し，各領域の理学療法士の役割について理解を深める

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論Ⅱ	平塚 健太、相馬 栄大、工藤 達也、 羽澤 晃士、外舘 洸平(実務経験教員)	2	3	後期

授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	基礎・臨床医学領域： 骨格系の構造と機能　①	骨の発生学，微細構造，形状について理解できる
2	基礎・医学領域 骨格系の構造と機能　②	骨機能，骨疾患について理解できる
3	基礎・医学領域 骨格系の構造と機能　③	関節の形状とその動きについて理解できる
4	基礎・医学領域 骨格系の構造と機能　④	骨に関わる運動器疾患について理解できる
5	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　①	筋の種類，収縮のメカニズムについて理解できる
6	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　②	エネルギー代謝・筋疾患などを理解できる
7	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　③	筋の支配神経，神経筋接合部の機能について理解できる
8	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　④	関節運動と筋収縮の関係について理解できる
9	基礎・臨床医学領域 神経系　①	中枢神経の構造と機能について理解できる
10	基礎・臨床医学領域 神経系　②	中枢神経障害による病態について理解できる
11	基礎・臨床医学領域 神経系　③	末梢神経の構造と機能について理解できる
12	基礎・臨床医学領域 神経系　④	末梢神経障害による病態について理解できる
13	基礎・臨床医学領域 神経系　⑤	脊髄疾患，脊髄損傷の病態について理解できる
14	基礎・臨床医学領域 神経系　⑥	自律神経の構造と機能について理解できる
15	基礎・臨床医学領域 内臓系　①　呼吸器	呼吸器構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
16	基礎・臨床医学領域 内臓系　②　循環器	循環器構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
17	基礎・臨床医学領域 内臓系　③　消化器Ⅰ	口腔、食堂、胃の構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
18	基礎・臨床医学領域 内臓系　④　消化器Ⅱ	十二指腸、小腸、大腸の構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる

19	基礎・臨床医学領域 内臓系　⑤　消化器Ⅲ	肝臓、膵臓、胆道の構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
20	基礎医学領域 内臓系　⑥　泌尿器	腎臓・膀胱の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
21	基礎・臨床医学領域 内分泌系	内分泌器官の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
22	基礎・臨床医学領域 代謝系	各代謝のメカニズムと働き，代表的な疾患とその症状について理解できる
23	基礎・臨床医学領域 先天性疾患	様々な遺伝病，周産期異常など，代表的な先天性疾患の症状について理解できる
24	基礎・臨床医学領域 精神医学　①	精神障害領域の疾患と治療について理解できる
25	基礎・臨床医学領域 精神医学　②	てんかん，認知症について理解できる
26	基礎・臨床医学領域 精神医学　③	統合失調症について理解できる
27	基礎・臨床医学領域 精神医学　④	うつ病，パーソナリティ障害について理解できる
28	基礎・臨床医学領域 小児科学領域　①	小児の運動発達およびその評価について理解できる
29	基礎・臨床医学領域 小児科学領域　②	脳性麻痺について理解できる
30	基礎・臨床医学領域 小児科学領域　③	発達障害も含め小児科領域の疾患について理解できる

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論Ⅲ	平塚 健太、相馬 栄大、工藤 達也、 羽澤 晃士、外舘 洸平(実務経験教員)	2	3	後期

授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	基礎・臨床医学領域 臨床心理学　①	発達段階と発達課題について理解できる
2	基礎・臨床医学領域 臨床心理学　②	防衛機制，障害受容，記憶について理解できる
3	基礎・臨床医学領域 臨床心理学　③	心理療法，各種検査について理解できる
4	基礎・臨床医学領域 リハビリテーション概論	障害分類（ICF），ユニバーサルデザインについて理解できる
5	基礎・臨床医学領域 公衆衛生	標準予防策，一時救命処置などのリスク管理について理解できる
6	基礎・臨床医学領域 制度関連	理学療法士および作業療法士法，介護保険などの法制・制度を理解できる
7	基礎・臨床医学領域 病理学　①	免疫，感染症について理解できる
8	基礎・臨床医学領域 病理学　②	腫瘍，老化について理解できる
9	基礎・臨床医学領域 病理学　③	炎症，創傷治癒について理解できる
10	基礎・臨床医学領域 老年医学	サルコペニア，フレイル，廃用症候群について理解できる
11	基礎・臨床医学領域 病理学　③	内分泌器官の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
12	基礎・臨床医学領域 診断学　①	脳の画像診断学について理解できる
13	基礎・臨床医学領域 診断学　②	胸部，腹部，四肢の画像診断学について理解できる
14	基礎・臨床医学領域 診断学　③	異常心電図の判読，心疾患の診断について理解する
15	基礎・臨床医学領域 臨床薬理学	様々な症状に適応する薬剤について理解できる
16	基礎・臨床医学領域 生化学検査	生化学的検査による正常基準と異常所見を惹起する疾患について理解できる
17	基礎・臨床医学領域 PE・PA	フィジカルアセスメントに関連する各事項について理解できる
18	専門領域 生体力学　①	てこの原理，モーメントなどの運動力学について理解できる

19	専門領域 生体力学　②	正常歩行の特徴および歩行周期と筋活動，歩行率について理解できる
20	専門領域 生体力学　③	異常歩行の特徴およびその原因について理解できる
21	専門領域 生体力学　④	姿勢，基本動作における運動学的特徴について理解できる
22	専門領域 運動療法学　①	運動学習の理論と学習方法，患者教育について理解できる
23	専門領域 運動療法学　②	関節可動域訓練およびストレッチングの理論と方法について理解できる
24	専門領域 運動療法学　③	筋力増強訓練の理論と方法について理解できる
25	専門領域 運動療法学　④	運動における呼吸，循環，代謝などの生体反応について理解できる
26	専門領域 物理療法学　①	温熱療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
27	専門領域 物理療法学　②	寒冷療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
28	専門領域 物理療法学　③	超音波療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
29	専門領域 物理療法学　④	電気刺激療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
30	専門領域 物理療法学　⑤	水治療法および牽引療法の適応と禁忌，実施方法について理解できる

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

☐ 選択 ☑ 必修		☑ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論Ⅳ	平塚 健太、相馬 栄大、工藤 達也、羽澤 晃士、外舘 洸平(実務経験教員)	2	3	後期

授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	専門領域 理学療法評価　①	関節可動域測定について理解できる
2	専門領域 理学療法評価　①	徒手筋力検査について理解できる
3	専門領域 理学療法評価　③	高次脳機能検査などの疾患別評価法について理解できる
4	専門領域 理学療法評価　④	脳血管障害などの疾患別評価法について理解できる
5	専門領域 補装具学　①	上肢，体幹装具の名称，機能，適応について理解できる
6	専門領域 補装具学　②	下肢装具の名称，機能，適応について理解できる
7	専門領域 補装具学　③	切断術後の評価，断端管理，術後リハビリテーションについて理解できる
8	専門領域 補装具学　④	義足の名称，構造と機能，適応について理解できる
9	専門領域 運動器障害領域　①	肩，肘関節疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
10	専門領域 運動器障害領域　②	股関節疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
11	専門領域 運動器障害領域　③	膝関節疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
12	専門領域 運動器障害領域　④	手，足関節疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
13	専門領域 運動器障害領域　⑤	脊椎疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
14	専門領域 運動器障害領域　⑥	スポーツ障害の理学療法について，その目的と方法を理解できる
15	専門領域 神経障害領域　①	脳卒中の理学療法について，その目的と方法を理解できる
16	専門領域 神経障害領域　②	高次脳機能障害の理学療法について，その目的と方法を理解できる
17	専門領域 神経障害領域　③	脊髄損傷の理学療法について，その目的と方法を理解できる
18	専門領域 神経障害領域　④	パーキンソン病の理学療法について，その目的と方法を理解できる

19	専門領域 神経障害領域　⑤	神経・筋疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
20	専門領域 内部障害領域　①	心疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
21	専門領域 内部障害領域　②	呼吸器疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
22	専門領域 内部障害領域　③	代謝疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
23	専門領域 内部障害領域　④	腎機能障害の理学療法について，その目的と方法を理解できる
24	専門領域 内部障害領域　⑤	がんの理学療法について，その目的と方法を理解できる
25	専門領域 発達障害領域　①	脳性麻痺の理学療法について，その目的と方法を理解できる
26	専門領域 発達障害領域　②	筋ジストロフィーの理学療法について，その目的と方法を理解できる
27	専門領域 発達障害領域　③	重症心身障害児の理学療法について，その目的と方法を理解できる
28	専門領域 発達障害領域　④	知的発達障害児の理学療法について，その目的と方法を理解できる
29	専門領域 老年期障害領域	老年期障害領域の理学療法について，その目的と方法を理解できる
30	専門領域 医療統計	代表的な検定方法について理解できる

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅰ	平塚　健太 （実務経験教員）	1	1	後期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における理学療法士の臨床活動を見学する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	1単位（40時間）で行う臨床実習Ⅰ（見学実習）を通して，理学療法士の職務について理解を深める． 臨床場面における理学療法士の活動，他のリハビリテーション関連職種との連携業務を見学し，リハビリテーション業務の全体像を理解する．また，臨床教育者の指導により，患者（利用者）と個別にコミュニケーションをとり，大まかな障害像を把握できるように学習する．
2	
3	
4	
5	
6	
7	本実習では，それぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（８時間）により，どのような態度・視点で見学実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，臨床教育者とのコミュニケーションのとりかた，当該実習施設の役割や使命，リハビリテーション部門の大まかな業務の流れ（処方・評価・治療など），理学療法士の具体的な業務，などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる． 臨床実習後の評価（８時間）では，臨床実習Ⅰで学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅱ	平塚　健太 （実務経験教員）	1	2	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，在宅・通所リハビリテーションにおける理学療法士の臨床活動を見学する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	1単位（40時間）で行う臨床実習Ⅱ（見学実習）を通して，在宅・通所リハビリテーションにおける理学療法士の職務について理解を深める． 臨床場面における理学療法士の活動，他のリハビリテーション関連職種との連携業務を見学し，リハビリテーション業務の全体像を理解する．また，臨床教育者の指導により，患者（利用者）と個別にコミュニケーションをとり，大まかな障害像を把握できるように学習する．
2	
3	
4	
5	
6	
7	本実習では，それぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（８時間）により，どのような態度・視点で見学実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，臨床教育者とのコミュニケーションのとりかた，当該実習施設の役割や使命，リハビリテーション部門の大まかな業務の流れ（処方・評価・治療など），理学療法士の具体的な業務，などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる． 臨床実習後の評価（８時間）では，臨床実習Ⅱで学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅲ	平塚　健太 （実務経験教員）	3	2	後期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における理学療法士の指導の下，見学・模倣の中で各種検査法の実習を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	
2	
3	
4	
5	3単位（120時間）で行う臨床実習Ⅲ（評価実習）を通して，理学療法士が対象者の検査をどのように実施しているかを見学・模倣を通して理解を深める．臨床指導者の指導により，各障害に対応する適切な検査法を選択し，患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる．
6	
7	本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（24時間）により，どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのか
8	を学ぶ．患者（利用者）との接し方，疾患・障害を理解するための情報収集の方法，対象者に応じた具体的な検査方法，その検査結果が示す健常者との相違点など，理学療法士が行っている検査法を事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．
9	臨床実習後の評価（16時間）では，本実習で学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅲ	平塚　健太 （実務経験教員）	9	3	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における理学療法士の指導の下，見学・模倣・実施のプログラムの中で治療学実習を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	
2	
3	
4	
5	
6	9単位（360時間）で行う臨床実習Ⅳ（総合実習）を通して，理学療法士が対象者の検査・評価・治療をどのように実施しているかを臨床教育者の指導のもとで見学・模倣・実施を通して理解を深め，各障害に対応する適切な治療法を選択し，患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる．
7	本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う．
8	臨床実習前の評価（24時間）により，どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，疾患・障害を理解するための情報収集の方法，対象者に応じた具体的な検査・評価方法，その検査結果が示すICFに照らし合わせた問題点・利点の解釈，理学療法士が行う治療手技などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．
9	
10	臨床実習後の評価（16時間）では，本実習で学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅳ	平塚　健太 （実務経験教員）	9	3	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における理学療法士の指導の下，見学・模倣・実施のプログラムの中で治療学実習を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	
2	
3	
4	
5	
6	9単位（360時間）で行う臨床実習Ⅴ（総合実習）を通して，理学療法士が対象者の検査・評価・治療をどのように実施しているかを臨床教育者の指導のもとで見学・模倣・実施を通して理解を深め，各障害に対応する適切な治療法を選択し，患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる．
7	本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う．
8	臨床実習前の評価（24時間）により，どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，疾患・障害を理解するための情報収集の方法，対象者に応じた具体的な検査・評価方法，その検査結果が示すICFに照らし合わせた問題点・利点の解釈，理学療法士が行う治療手技などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．
9	
10	臨床実習後の評価（16時間）では，本実習で学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			